

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

12/1
令和3年(2021年)
No.2318

新型コロナウイルスに関する
最新情報はこちらで
ご確認ください

区では、区ホームページやツイッター
で、随時情報をお伝えしています。



新型コロナウイルス
感染症情報
(区ホームページ)



杉並区公式ツイッター
(地震・水防情報等)
@suginami_tokyo



いつまでも地域と一緒に

特集

10年で1000床増床を達成！
杉並の特別養護老人ホーム

Contents — 主な記事 —

8-9 | 区職員の給与などの状況についてお知らせします

10 | 杉並区中学校対抗駅伝大会2021の開催と交通規制

16 | 新型コロナワクチンの接種はお早めに

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課



お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が中止になる場合があります。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

10年で1000床増床を達成! 杉並の特別養護老人ホーム

区では、多様な住まい方の選択肢を広げ、高齢者の暮らしを支える仕組みづくりに取り組んでいます。特別養護老人ホームについては高齢化の進展によるニーズの高まりを受け、これまで積極的に整備を進めてきた結果、このたび「10年で1000床増床」の目標に到達しました。また、定員増だけでなく、入居後の地域とのつながりを大切に、生き生きと暮らしていけるような工夫を凝らしています。今号では、区の特別養護老人ホーム整備の現状について紹介します。

——問い合わせは、高齢者施策課施設整備推進担当へ。

定員数1000床増床達成への取り組み

取り組み 01 公有地の効果的な活用 **847床**
約1000床

特別養護老人ホームの整備には、安定的に運営するための大規模な用地が必要ですが、住宅都市である区内において、その確保は容易ではありませんでした。そこで、統廃合などを行った学校跡地など、区立施設の再編整備によって生み出された一定規模以上の区有地や、国や東京都との連携により未利用地を確保して整備を進めました。

取り組み 02 事業者への用地取得・建設助成 **196床**
約1000床

運営事業者が新たに民有地を取得して特別養護老人ホームを整備する際に、区は事業者に対して用地取得の費用助成を行いました。また、事業者が自ら所有している土地を転用して特別養護老人ホームを新設した際や、既存の特別養護老人ホームを改築し増床する際の建設費用の助成を行うことで、整備を後押しし増床を図りました。

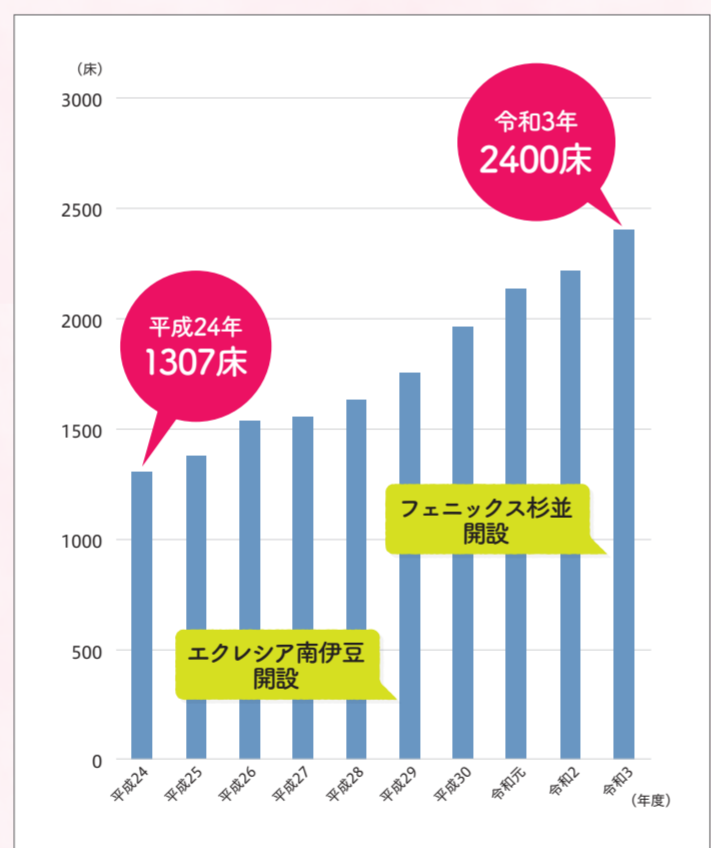
取り組み 03 自治体間連携による区外整備 **50床程度**
約1000床

区民の価値観や住まい方が多様化する中で、選択肢の幅を広げ、家族等も保養を兼ねてゆったりと面会できる「保養地型特養」という構想を掲げ、静岡県南伊豆町に全国初となる自治体間連携による特別養護老人ホーム「エクレスシア南伊豆」を平成30年3月に開設しました。

区・南伊豆町双方の行政課題を自治体同士の連携で解決するこの取り組みは、全国的にも大きな注目を集めました。

●定員数の推移

平成24年度末時点で、区には約1000人の優先度の高い特養入所待機者があり、特別養護老人ホームの整備が急務となっていました。こうした状況を受け、区では「平成24年(1307床)から令和3年の10年間で1000床の定員数を確保する」という目標を掲げ、整備を進めました。



「エクレスシア南伊豆」 入居相談窓口を 設置します

入居を検討中の方もお気軽にお立ち寄りください。

☎12月13日(月)・14日(火)午前10時～午後4時
☒区役所1階ロビー
🖼️パネル展示(施設や入居者が参加したイベントの様子)あり

特養「1000床増床」達成をご報告します

杉並区長 田中良

12月1日、荻窪税務署等跡地に建設していた特別養護老人ホーム・フェニックス杉並がオープンし、これをもって杉並区総合計画・実行計画に掲げた「10年で特養1000床増床」の目標を達成いたしました。長年にわたり区民をはじめ区議会や関係者の皆さまからご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

平成24年当時、杉並区内には優先度の高い特養入居待機者が1000人近くもいる状況でした。私は、この入居待機者の解消は「保育待機児童ゼロ」と並んで、基礎自治体がなすべき最重要課題であると考え、心血を注いで対策に取り組んでまいりました。

特養整備にあたっての大きな課題は、施設を建設するために必要な大規模用地の確保です。社会福祉法人自らが土地を確保することは、杉並のような住宅都市においては困難を極めます。そのため区では、法人の用地取得にかかる経費を助成することに加え、区有地や国・都の未利用地等を確保して賃貸することにより、整備を進めてまいりました。フェニックス杉並は、定員180名、

ショートステイ36名という大規模施設ですが、これも区が国の財産交換により約6300㎡の土地を確保したことで、その一部を活用して整備できたものです。

また、全国初の自治体間連携により交流自治体の南伊豆町に開設した「エクレスシア南伊豆」では、定員90名のうち50名程度を杉並区民の枠としています。単なる定員増にとどまらず、生活の場の選択肢を広げることにつながる区域外特養の取り組みは、全国的にも注目を集めました。

入居者の多くは高齢期を迎えてもなお、生き生きと健やかに暮らしたいと考えていることでしょう。昨今では、家族だけではなく地域とのつながりが保たれるように交流スペースを設ける施設も増えてきました。介護に係るさまざまなニーズをしっかりと見極めながら、今後も引き続き必要な対策を講じてまいりたいと思います。



入居後も地域とつながる。多様な取り組みの一部をご紹介します!

地域の皆さんも利用できます!

●カフェスペース

入居者と家族、地域の方々、施設職員をつなぐ交流スペースとして活用が期待されています。コーヒーや紅茶はもちろん、パスタやピザなどの軽食も提供しており、地域の方々も気軽にお立ち寄りいただけます。



事業者の声

現在はコロナの影響で、思い描いたような地域交流が十分には行えていませんが、コロナ禍が落ち着いたら、地域の皆さまに親しみを感じていただき、愛される施設となれるよう、カフェを活用し、入居者やそのご家族、地域の皆さま、施設職員にとって「出会い・集い・つながりの場」となれるよう取り組んでいきたいと考えています。

(プライムガーデンズ高円寺)

●地域交流スペース

施設の一部を地域交流スペースとして地域の方々に貸し出して活用しています。地域活動・団体の会議や研修会、講演会等の催し物やサークル活動など、入居者と地域の方々のふれあいの場としても活用できます。



事業者の声

コロナの流行前は、施設の駐車場で夏祭りを行ったり、地域交流スペースで活動しているサークルのハーモニカ演奏を入居者が聴いたりするなど、入居者と地域の交流がありました。将来的には夏祭りの再開や、地域交流スペースを活用して地域のサークル・クラブ活動に入居者が参加するといった交流ができればと思っています。

(リバービレッジ杉並)

開設により1000床増床達成!

「フェニックス杉並」オープン!

12月1日、特別養護老人ホーム「フェニックス杉並」がウェルファーム杉並特別養護老人ホーム棟内(天沼3-19)に開設します。区内最大級の入所者を受け入れるとともに、各室入居者の個性を重視したユニットケアを行います。全室個室で10~12名を1つの生活単位とする、ユニット型特別養護老人ホームです。

特養: 180名 **ショートステイ: 36名** **全室個室: 18ユニット(1ユニット12名)**

- 防災拠点型地域交流スペース
- 認知症カフェ
- 訪問看護ステーション
- 看護小規模多機能型居宅介護事業所
- 診療所 など



天沼に新規オープン

特別養護老人ホームの入所申し込み方法

入所申込書「杉並区特別養護老人ホーム入所申し込みのしおり」(高齢者在宅支援課(区役所西棟2階)、各ケア24、区内・区外協力特別養護老人ホームで配布。右2次元コードからも取り出せます)を確認の上、申込書に介護保険被保険者証の写しを添えて、各特別養護老人ホームへ持参してください。 ※区役所、各ケア24では、申し込みを受け付けていません。

☎高齢者在宅支援課施設入所係

CHECK!

特別養護老人ホーム一覧はコチラから!

